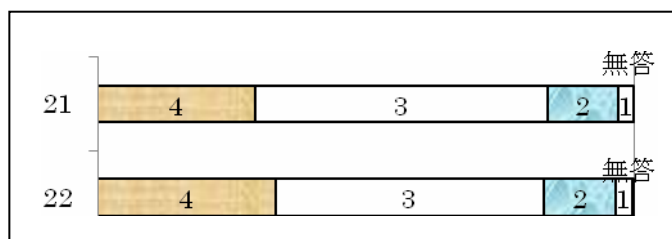


■■■「授業・諸活動」に関するアンケート結果■■■

I 生徒アンケート

教師について

1 先生方は、生徒会活動や部活動などで、生徒が活発に活動できるように取り組ませていると思いますか。



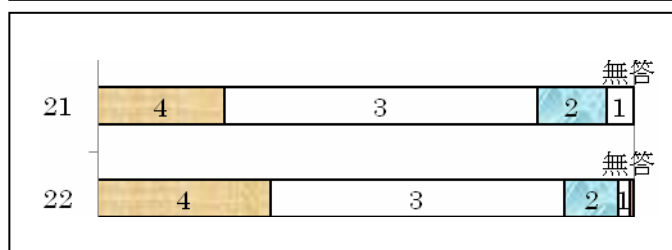
○肯定的な評価 83% (昨年度比-1)

●否定的な評価 16% (±0)

行事や部活動についての教職員の関わり方を問う項目である。昨年度と比べて大きな変動はなく、80%以上の生徒が肯定的なとらえ方をしている。

この2年間、大きな行事や日常の取り組みで、生徒会が主体となった取組がなされているのが大きいと考える。

2 先生方は、生徒の皆さんにわかりやすく授業をしてくれますか。



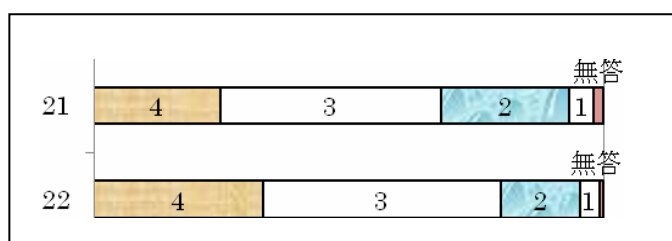
○肯定的な評価 87% (+5)

●否定的な評価 12% (-6)

教員が「わかる授業」を行っているかを問う項目である。昨年度と比べて肯定的な評価が若干増えている。その中でも、「4」の段階が+8ポイントと増えているのが特徴である。

しかし、昨年同様、保護者の評価が最も低いのはこの項目であり、裏を返せば学力向上を第一に期待していることがうかがわれる。

3 先生方は、生徒の皆さんの気持ちを理解しようと努め、相談に応じてくれますか。



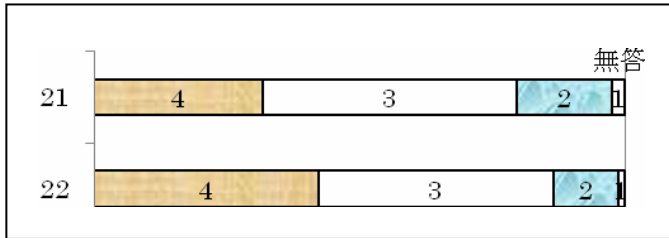
○肯定的な評価 80% (+12)

●否定的な評価 19% (-11)

生徒理解に関する項目で、昨年度は否定的な評価が30%と多く、課題として挙げられていた項目である。今年度は、肯定的な評価が80%と、昨年度比プラス12ポイントとなっており、大幅に改善されている。昨年度に厳しい結果が出ていたこともあり、教職員の意識に変化がもたらされた結果と考える。

自分について

1 あなたは、自分から進んであいさつをしていますか。



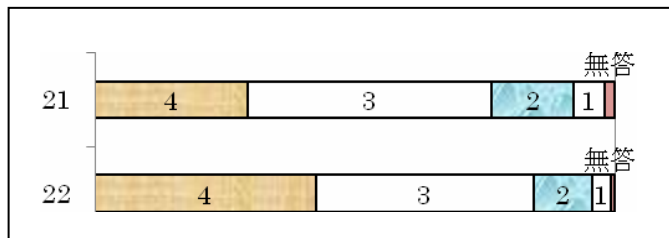
○肯定的な評価 87% (+7)

●否定的な評価 13% (-7)

昨年度も達成されていた項目であるが、さらに肯定的な評価が増えた。前期生徒会執行部が活動の重点として提案しており、その成果が表れたものとする。

ただし、少数意見ではあるが、保護者のアンケートで「以前よりあいさつが少なくなった」という声が寄せられた。「いつでも、どこでも、誰にでも」あいさつができる南中生でありたい。

2 あなたは、部活動に取り組んで、精神的に強くなったと思いますか。



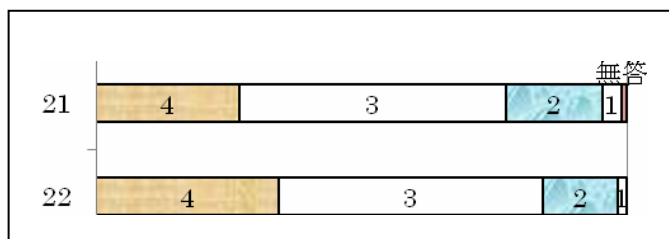
○肯定的な評価 84% (+8)

●否定的な評価 15% (-7)

昨年度の肯定的な評価は76%で、おおむね達成されていたが、今回はプラス8ポイントで、大きく上昇した。特に、「4段階」の生徒が13ポイント増えているのが注目される。

学校生活が落ち着き、安定していないと、部活動にも十分に取組めない。その点で、この項目の評価が高いことは学校生活の一つの指標となる。

3 あなたは、意欲的に行事に取り組んでいますか。



○肯定的な評価 84% (+7)

●否定的な評価 16% (-6)

この項目も、昨年度77%で7ポイント上昇している。「行事や部活動についての教師の関わり方」を肯定的に評価する生徒が8割以上いるが、前項の「部活動」と併せて考えても、整合性がある。

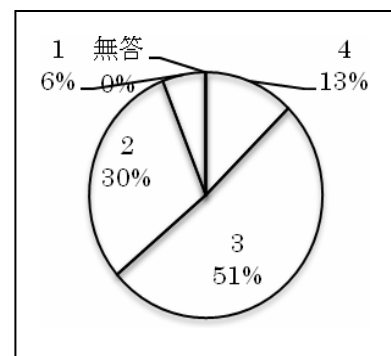
役員団を中心とした、様々な生徒会活動を通して、行事で盛り上がる学校であり続けていきたいものである。

4 あなたは、授業中、進んで発言したり、集中して学習に取り組んだりしていますか。

○肯定的な評価 64% ●否定的な評価 36%

今回、新設した項目で、次の「提出物」とともに意欲的に学習に取り組んでいるかを問うものである。

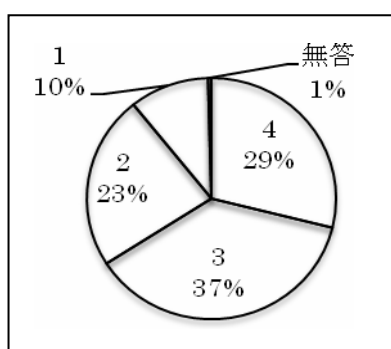
結果をみると、「まなびフェスト」で目標としていた 80%以上という数値には達していない。8 割以上の生徒が「わかりやすく授業をしている」と評価しているが、さらに指導方法の工夫・改善が求められていると考える。



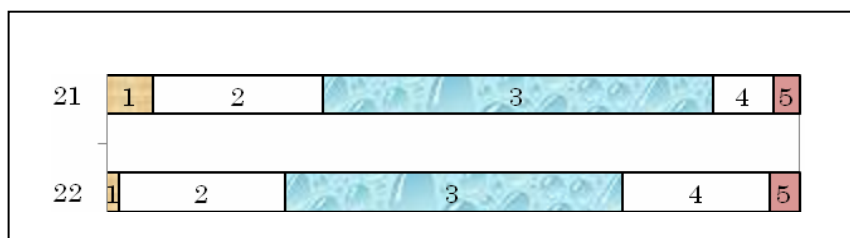
5 あなたは、期限を守って、提出物を提出していますか。

○肯定的な評価 66% ●否定的な評価 33%

これも今回からの質問項目である。期限を守って提出物を出すという、当たり前のことを当たり前にできるように指導していかなければならない。また、それをできなくさせている要因についても、個に応じて指導する必要がある。



1日の家庭学習時間



1 : 全くしない 2 : 1時間未満
 3 : 1時間～2時間 4 : 2時間～3時間
 5 : 3時間以上

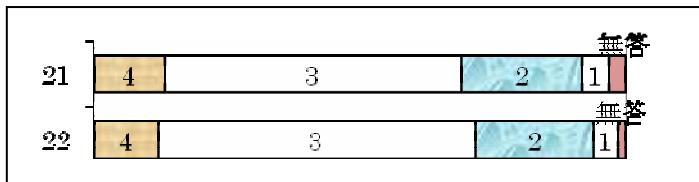
「まなびフェスト」の達成目標は「1時間以上 80%」である。今回は 74%と、昨年度より 5ポイント増えたが、中学生の学習時間としてはまだ不十分と言わざるを得ない。

その中で、2時間以上学習している割合は 26%（昨年度 13%）で、意識の高まりはみられる。

「全くしない」という回答は 2%（4人）で、昨年度の 7%（14人）より大幅に改善されているが、まだ工夫の余地はある。授業と関連させた課題を出し、「家庭学習をしてきて良かった」「家庭学習は役に立つ」という実感を持たせるなどして、意欲に働きかけながら指導にあたっていきたい。

II 保護者アンケート

【特色ある学校】 学校は、学校教育目標（自ら学び 心ゆたかで たくましい生徒）の達成をめざし、特色ある教育活動を展開していると思いますか。

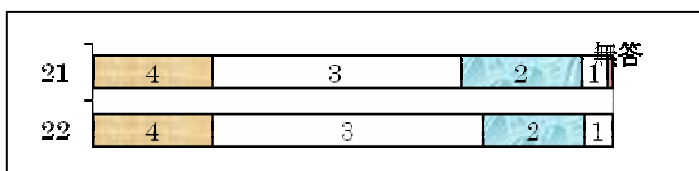


○肯定的な評価 72% (+3)

●否定的な評価 27% (-1)

「3」の段階がやや増えたが、ほぼ昨年度と同じような傾向を示している。あいさつ運動やボランティア活動、合唱など、まだまだ工夫の余地があるのではないかと考える。また、次の項目とも関連するが、タイムリーな情報提供をさらに心がけていきたい。

【開かれた学校】 学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思いますか。

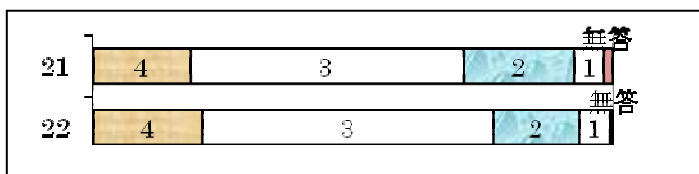


○肯定的な評価 75% (+4)

●否定的な評価 25% (-3)

肯定的な評価が+4ポイントで、やや改善されている。ホームページの更新が、昨年度より頻繁になされていることも要因の一つであろう。それでもまだ約4分の1の方が不十分と考えているのは、生徒を通してのペーパーによる情報発信が、うまく機能していないからかもしれない。

【生徒の活動】 教職員は、生徒会活動や部活動などで、生徒を活発にかつ積極的に取り組ませていると思いますか。

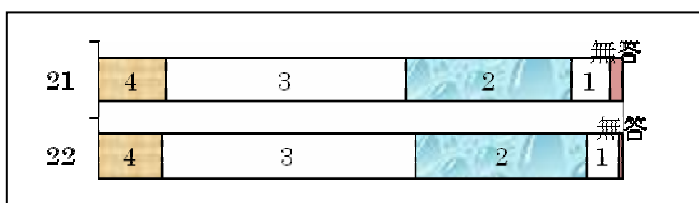


○肯定的な評価 77% (+5)

●否定的な評価 22% (-5)

この項目も若干改善されており、生徒アンケートの「部活動」「行事」の項目との整合性がみられる。今後とも、生徒の主体的な活動が展開されるよう、継続的・計画的に指導していきたいと考える。

【学力向上】 教職員は、一人ひとりの生徒の学力が向上するように努めていると思いますか。

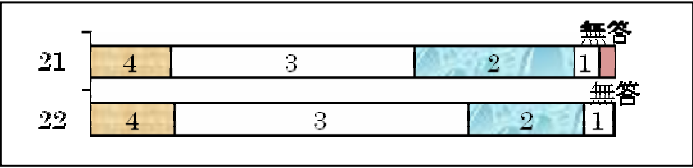


○肯定的な評価 60% (+1)

●否定的な評価 39% (+1)

昨年度に引き続き、保護者アンケートの中では肯定的な評価が最も低くなっており、6割にとどまっている。「まなびフェスト」での県の学習定着度状況調査との比較では改善がみられたり、2時間以上家庭学習している生徒が倍増となったりしているが、まだ保護者の期待には十分に答えられていないと判断せざるを得ない。

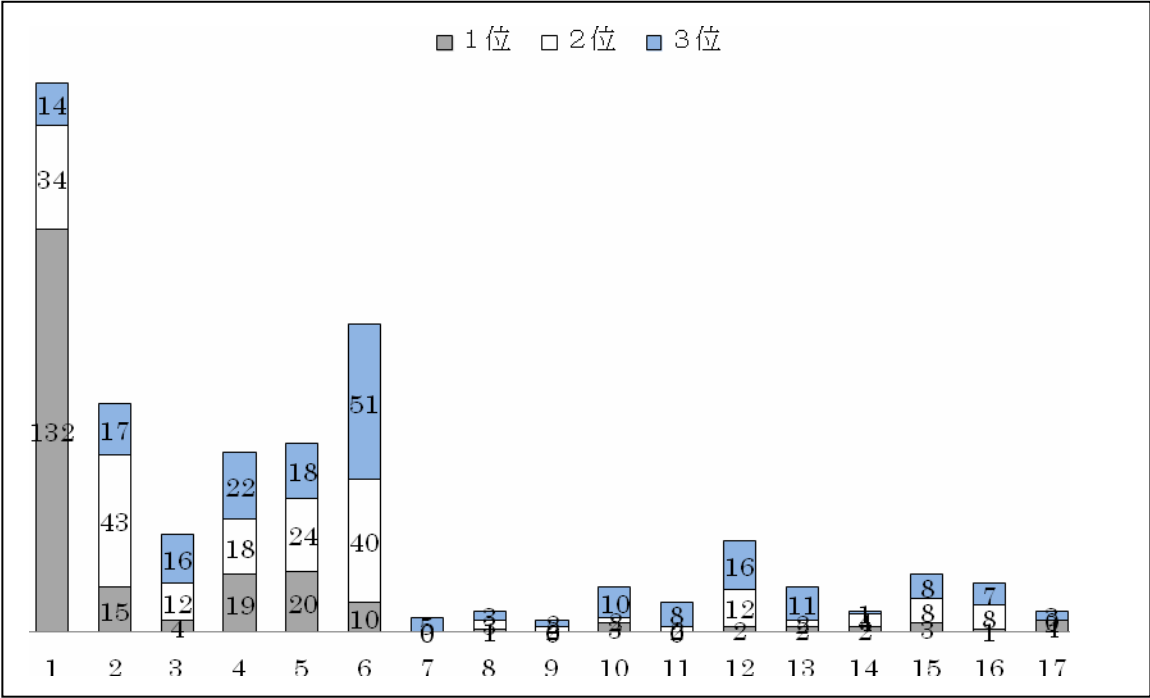
【生徒理解】 教職員は、生徒の気持ちを理解し、相談などに丁寧に応じていると思いますか。



○肯定的な評価 72% (+10)
●否定的な評価 28% (-7)

「4」の段階はほぼ昨年度と同じだが、「3」が増えたことにより、肯定的な評価が大幅に増えている。生徒アンケートでも+12ポイントで、その点でも整合性がある。昨年度は厳しい結果が出ていたので、教職員の意識にも変化が見られ、直接対話や、「生活記録ノート」を通しての間接対話で改善が図られたものとする。

学校で、もっと力を入れてほしいと思うこと（保護者の期待）



- 1：学習指導 2：部活動指導 3：非行の防止 4：友人や仲間づくり
- 5：道徳の指導 6：進路の指導 7：生徒会活動 8：学校の行事
- 9：地区の行事 10：健康・安全の指導 11：性に関する指導
- 12：コンピュータや情報の教育 13：環境教育 14：食育に関する指導
- 15：国際理解教育 16：読書の指導 17：その他

○第1位に選んだ項目の上位3項目

- ①学習指導 ②道徳の指導 ③友人や仲間づくり

○合計の上位3項目

- ①学習指導 ②進路の指導 ③部活動指導

「第1位」に選ばれている項目は、昨年度と同じく、「学習指導」「道徳の指導」「友人や仲間づくり」が上位を占めている。合計で「進路の指導」が増えているのが、今年の特徴である。直接的な「受験指導」と、職場訪問などの将来を見据えた「体験学習」に対する期待の表れと考える。「部活動指導」は少なくはないが、保護者の期待が多様化していることがうかがえる。

「その他」には、「あいさつ指導」、「教師と生徒の信頼関係」、「部活動終了時間の厳守」という声が複数あったほか、「学校の特色」「自立心の向上」「服装、頭髪の指導」「給食なしの連絡の徹底」という声が1件ずつあった。